

2016年
1月号

カトリック笹丘教会

教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」
小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

存在するもの全てをいとおしまれる神



主任司祭 遠山満

神学生の時、あるミッションスクールの海の家を借りて、黙想会が行われたことがあります。その時の黙想会は、聖イグナチオの霊操による黙想会で、一日のほとんどを沈黙の祈りに費やし、祈りの中で気付いたことを霊操指導者に話しながら、黙想の日々が流れました。私がある時祈った事は、共に養成を受けていた、ある兄弟との関わりについてでした。「イエス様、私、あの兄弟を受け入れる事ができません。どうかして下さい」。そのように祈っていました。その時の私は、ある兄弟を受け入れる事ができず、苦しんでおりました。その思いを、イエス様に正直に打ち明けておりました。

黙想会の中で、休憩時間もありました。休み時間に海辺を歩いていた時、不思議な生き物を発見しました。海牛です。軟体動物で、色が美しいと言う人もいますが、私には、醜い動物にしか見えませんでした。私は、その動物を見ながら、「何故、神様は、このような生き物を創られたのだろう」と不思議に思っておりました。その後、部屋に戻って祈り始めると、また、あの兄弟のことが頭に浮かんできました。「イエス様、どうかして下さい」。そんな祈りと、散歩を繰り返しておりました。そのような時間が、どれくらい続いたでしょう。再び、同じような祈りをしていた時です。イエス様が私に、その時の私の心の有様を見せて下さいました。その時の私の心の有様は、海牛の姿でした。醜くて、ドロドロとした、あの海牛です。その時、私は思いました。「海牛は、醜くても、神様から存在することを赦されている。私も然り。醜くても、神様が、私が存在することを赦して下さい。あの兄弟もまた、神様から存在することを赦されているのだ。だから、自分が、あの兄弟に関してとやかく言うべきではないのだ」。

水平方向で人間関係を見れば、相手を受け入れる事ができなくても、神様からの視点、つまり垂直方向で人間関係を見れば、相手を受け入れる事ができた、そのようにして下さい。体験です。

聖書の中に次のような言葉があります。「あなたは存在するものを愛し、造られたものは何一つ忌み嫌われない。もし憎いものがあつたとすれば、あなたはそれを形づくられなかったであろう。あなたが望まなければ、どうして存在し続けることができよう。—中略— 命を愛される主よ、あなたは全てのものをいとおしまれる」(知恵の書 11章 24～26節)。神様のいつくしみを讃えたいと思います。



1. 成人祝福ミサ（ミサ中に祝福）

(1) プレゼントは購入済 ラッピングが必要

(2) 案内状発送済 参加者によって 1/3、1/10 に簡単な茶話会

2. 新年会(1/17)

(1) 日程、プログラム等

・当日、大名町教会で福岡地区女性の会主催の講演会が14時から計画されており、13時～13時30分には終了したい。

3. 小教区組織・一人一役について

今後の取り組みについて

・連絡網作りに手間取って着手が遅れていたが、組織図を掲示のうえ希望のチーム・グループを記入するカードを配布し提出してもらおうと呼びかけを行う。出来るだけたくさんの方々に共同の意識を持っていたたく中で、仲間を増やし、チームの横の連携を図っていきたい。

4. その他

(1) いつくしみの特別聖年(12/8 ~ 2016. 11. 20)

・小教区の具体的取組みについて今後検討する。

(2) 堅信式日程等

9/4 堅信式を行う。

(3) 2016. 9. 3 献堂五周年行事

8/28 アウグスチノ祭と一緒にやったらどうか。何をやるかも含め今後検討する。

(4) 防災・防火の取り組み

実施方法等再検討する。

(5) 建物(屋根)補修工事

設計会社、建設会社と検討する。

(6) 東北復興カレンダー申し込み(2016/3~2017/3) (1部300円以上の寄付)・

年明けから取り組む。

(7) 「戦争法の廃止を求める統一署名」最終集約2016年4月25日

年明けから取り組む。

5. 今後の予定

1月3日(日) 成人祝福式

1月10日(日) 成人祝福式

1月17日(日) 新年会

1月23日(土) 役員会

2月5日(金) アンナ・ヨアキム

2月7日(日) 拡大信者会

2月10日(水) 灰の水曜日





Merry Christmas

笹丘教会の三つのプレゼビオ



いろんな音色でクリスマスの歌



サンタさんから
プレゼントも

たくさんの方々と救い主の
ご誕生をお祝いしました。



「今日は満員で部屋は空いてないよ」と何度も何度もセリフの練習したのに、本番ではマリア様とヨゼフ様があまりにもかわいそうになって「そんなに困っているんだったら、ぼくの家に来なよ」と言ってしまった小さな子。世界中にはたくさんの難民がいます。私たちもあの子のように……

盛況だったクリスマスバザー



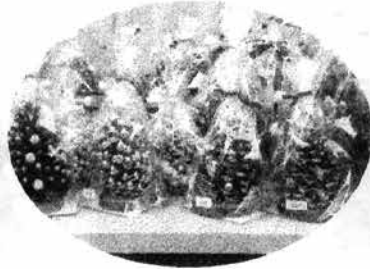
若い力も大活躍



キッチンは大忙し



手作り品はいつも大人気



ホール食堂では豚汁、ぜんざい、
おにぎりサンド etc



大盛況！！手作り品コーナー





信仰のルーツ コーナー



わたしの信仰のルーツ 「あるドイツ人神父様との出会い」

(匿名希望)

教会での初めての記憶は、幼稚園児の頃だ。信者だった母に連れられ訪れた東京の板橋教会。わたしはそこで、フランシスコ会のドイツ人神父、ゲレオン神父様に出会った。背が高く茶色い不思議な服を着た外国人・・・当時5歳か6歳だったわたしは「久しぶりですね。元気にはしていましたか？」と流調な日本語で話しかけてくるその人にびっくりしたことを覚えている。わたしは父の転勤で小学校低学年のときに東京から離れたので、神父様と過ごした時間はほんの数年であるのだが、この神父様との出会いは未だに忘れられない思い出である。

神父様はとても厳しい人で、ミサ中私語が聞こえた！遅刻をした！等、しょっちゅうカミナリが落ちていた。しかし、カミナリを落とすばかりでなく何かにつけてわたしたちに「神様はとても喜んでくださっています。」とニコニコしながら言われていた。生活に困っている人、病気の人など助けられた人もたくさんいたようである。子どもたちを大切にされていて、自ら教会学校でわたしたちに聖書のことを熱心に教えてくださった。とても数奇なプロフィールを持った方で、第2次大戦中何度も信仰に対する迫害を受けたり、兵士として命を落としそうになった中、アフリカで捕虜として収容中、司祭叙階をされた人でもある。神父様の厳しさの中での優しさ、そして実行力はそんなプロフィールにも影響していたのだろう。

神父様との一番の思い出は、軽井沢での「夏の学校」だ。神父様自ら資金をためて作られた「聖アントニオの家」で毎年10日間ほど行われていた。毎朝のミサや神父様による聖書の勉強、当然テレビもなし・・・と子ども達にとっては楽しいばかりの時間ではなかったと思うのだが、漬物とおにぎりだけのお弁当をもってでかけたハイキングや自転車で遊んだこと、キャンプファイヤーなど楽しいことのほうが勝っている毎日だった。聖書の勉強のなかで出てきた「パウロの改心」はよほど、力をこめて話をされたのだろう、未だにその時のことが忘れられない。

高校生の時わたしは長い求道期を経て高宮教会で受洗をした。ゲレオン神父様と同じ茶色い修道服をきた神父様からすすめられた霊名「ハンガリーのエリザベト」はあの板橋教会の守護聖人だった。その後の青年会での活動、その中で出会った夫との結婚、子育て・・・わたしは、何度もあの背の高い茶色い修道服を着た姿、「神様はとても喜ばれています。」という言葉思い出しては励まされてきた。

12年前、神父様が天国へ行かれた事を新聞で知った。今、わたしは、縁あって教会学校であの時のわたしと同じ年の人たちと過ごしている。「夏の学校」で小さかったわたしを支えてくれたゲレオン神父様やまわりの人たちへの感謝を思いながら、子どもたちとの時間を大切に、前に進んでいきたい。

編集後記

昨年末、福岡で初めて市民クリスマスに参加した。牧師さんの聖書朗読、子供たちの美しい合唱、そして講演があったが、私の眼中の舞台上には35年前へタイムスリップして、当時の宮崎市民会館の舞台に立つ自身の姿。場所、時代は違っているが同じ「市民クリスマス」。その年の舞台では仲間たちと主キリストのご受難からご復活までの聖劇を演じた。観客からすすり泣く声さえ聞こえた感動の二時間の劇はオリジナルだが聖書に忠実な台本を仲間が書いてくれた。その脚本家兼裏切者のユダを演じた彼は今、ガンと闘っている。イエス役は受難の場面では容赦なく本物の鞭で打たれ、身体中みみず腫れになりながらも演じたが、彼の奥様も同様にガンに侵されて闘病中である。

まもなくあの未曾有の大震災からまる五年を迎えようとしている。

「ラビ、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか、それとも両親ですか」「本人が罪を犯したのでもなく、両親が罪を犯したのでもない。むしろ、神の業がこの人に現れるためである」

旧約聖書のヨブの物語が脳裏をかすめる。無垢で善人ヨブを襲う苦難。しかし、苦難、苦悩の中でこそ彼は神を見た。

「いつくしみの特別聖年」が始まった。主のいつくしみのみ顔が彼らとその家族そして苦難の中にあるすべての人々に届きますように。(Y.K)